

御所の柿産地強化に向けた取り組み

要約

御所市は完全甘柿のルーツとされる「御所柿」発祥の地で、金剛葛城山麓の気候風土を活かし高品質な柿が生産されている。産地強化に向け、

- 刀根早生、平核無、富有の高品質生産〔選果基準の作成、大玉生産〕
- 幻の柿「御所柿」復活のための販路開拓〔販路拡大、着果安定〕
- 柿葉の生産性向上〔規格葉生産のための技術改善〕

に取り組んだ。

現状(背景)と課題

- ・〔主力品種〕 刀根早生、富有等共選品種の品質向上
(37名、12ha、共選出荷 25トン)
- ・〔御所柿〕 完全甘柿のルーツ「御所柿」の安定生産と販路開拓 (30a、生産量 1,100kg)
- ・〔柿葉〕 生産性向上
(55a、12.1万枚 (2.2万枚/10a))

目標

- 〔主力品種〕 新たな選果基準を策定、
富有の2L上率 41.6%
- 〔御所柿〕 加工用販路開拓 1カ所
- 〔柿葉〕 10aあたり生産枚数
2.5千枚

活動内容

- 〔主力品種〕 選果基準作成のため、選果現場を調査、役員会で問題提起、生産者の意見確認
大玉生産のための摘果指導 (園地巡回等)
- 〔御所柿〕 PR資料を作成し、県内のホテルやスイーツ店に紹介・販売促進
着果安定のための枝の環状はく皮試験ほを設置
- 〔柿葉〕 規格 (幅 11cm×長さ 17cm) 以上の葉生産のためのせん定講習会及び増産のための
技術展示ほ (葉面散布や大苗間植え密植等) 設置

成果

- 〔主力品種〕 新たな基準を作成し、平成 30 年度産の共選出荷から活用
猛暑、干ばつ、台風という異常気象の影響により小玉傾向 (目標達成できず)
- 〔御所柿〕 PR資料を作成し、県内のホテルやスイーツ店に紹介・販売促進⇒2 店舗で取扱
35kg 販売
枝の環状はく皮試験ほを設置し、その効果を確認できた。
- 〔柿葉〕 10a あたり生産枚数 27%増の 28,000 枚
シヨ糖葉面散布の効果を確認できた

■刀根早生、平核無、富有の高品質生産

柿部会選果基準(松本早生・富有)

正産(秀)	○印	無印



出荷目揃い会



園地巡回

■幻の柿「御所柿」復活のための販路開拓



スイーツ店で利用（タルトやブリュレ）



■柿葉の生産性向上



大苗密植と仕立て方検討



せん定方法

普及活動のポイント

- ・選果時の問題点抽出のため選果場調査を実施し、従来あいまいな表現が多かった選果基準を具体的な数値やイラストとした。
- ・御所柿の希少性、歴史的背景を強調したPR資料を作成し、スイーツ店等へ需要調査を実施
- ・柿葉生産に適したせん定方法の講習会や巡回指導、試験ほ設置の組み合わせで継続支援

対象の変化

- ・摘果巡回等により生産者の適正着果に対する意識は高まったが、異常気象等の影響が大きかった。基準の具体化により、家庭選果、選果台選果ともに品質のばらつきが減少しつつある。
- ・部会では、御所柿の安定生産を目指す一方で、スイーツ店での加工向けの需要を確認できた。
- ・柿葉せん定講習会や5月～7月の新梢管理、適正施肥等の巡回指導を継続し、生産性が向上してきた。

対象者からのコメント

- ・「葛城の柿品質」の高位平準化、加工用御所柿の販路拡大、放任園対策としての柿葉生産への取り組みを通じて、大産地にはない特色のある産地を目指したい。

これからの活動ビジョン

- ・共選品目の品質向上
新たな選果基準の問題点を抽出・改善し、部会員への周知徹底を図り、出荷品質の高位平準化を目指す。また、JA・部会と連携し適正着果およびカメムシ等病害虫の適期防除の推進を行う。
- ・御所柿のPR
加工用御所柿の販路拡大に努めるとともに、農業研究開発センターと連携し、着果安定対策の確立と普及を図る。
- ・柿葉の生産性向上
講習会等により栽培技術の向上を図り、葉面散布等新たな技術の現場実用性検討を進める。放任園増加を防ぐため、果実栽培が困難になった生産者に対し継続的な啓発が必要。

活動体制

